

日本鉄鋼協会記事

研究委員会

第3回委員会 開催日：7月5日。出席者：田中委員長，ほか18名。

シソーラス作成委員会の活動報告が染野委員長および山村幹事会主査からあり活発な質疑応答がなされた。なお委員会の方針としては取扱っている用語間の関係づけは厳密に定義していくと極めて難しいものとなり進められないので、電算機処理のためのルール化と割り切つて活動を進めていく旨の説明があつた。

また石原，浅田助成金選考の件については7月31日締切後，内容別に選考委員に選考し，最終決定は9月20日の研究委員会で行なうことになつた。

その他，基礎共同研究会運営委員会決定事項の1つである新部会設置（微量元素の偏析）について田中委員長より鉄鋼工学講習会の件については加藤主査より，アンケート回答結果で支持率が高かつたので予定通り進める旨の説明があつた。

次回は9月20日に行ない，材料委員会活動報告，石原・浅田助成金授与者の決定などを予定している。

編集委員会

第5回和文会誌分科会 開催日：7月5日。出席者：松下主査，ほか17名。

1. 「鉄と鋼」第60年第8号まで完成，発送済み。
2. 19件の論文について審査報告がなされ，そのうち修正依頼9件，掲載決定されたのが10件であつた。

第5回欧文会誌分科会 開催日：7月9日。出席者：中村正久幹事，ほか7名。

1. 9件の論文につき審査報告がなされた。
2. 「鉄と鋼」60年12号のアブストラクトより2件の研究論文と1件のレポート，「鉄と鋼」以外の国内雑誌より1件の研究論文と1件のレポートにつき投稿を勧誘することになつた。

共同研究会

製鋼部会

第58回部会 開催日：7月4，5日。出席者：石原部会長，ほか102名。

1. 特別講演
「神戸製鋼所の公害防止対策について」
神鋼・神戸 富岡副所長
2. 研究発表（自由議題）
14件の発表に対し質疑応答がなされた。
3. 研究発表（重点テーマ）
「製鋼工場における省資源省エネルギーについて」
神鋼，川鉄，住金の3社から発表があり座長（新日鉄・甲谷氏）を中心に討議がなされた。
4. CC用語検討小委員会中間報告
5. 工場見学

神鋼，神戸製鉄所および尼崎製鉄所

圧延理論部会

（発足20周年記念シンポジウム）

「圧延研究の進歩と最新の圧延技術」

開催日：6月3，4日。出席者：吉田部会長，ほか297名
五弓，鈴木両先生の講演と大学，会社関係の研究者による14テーマの研究発表が行なわれた。そのテーマは下記のとおりに。

1. 圧延技術に対する金属工学技術者の役割
2. 圧延研究の最近の進歩
3. 圧延理論部会の共同研究成果
4. 圧延理論における変形抵抗の動的効果
5. 冷間圧延における潤滑と表面
6. 完全連続冷間圧延法の基礎理論と開発
7. 冷間タンデム圧延の総合特性
8. 油圧圧下式圧延機の進歩
9. 圧延理論とコンピュータ
10. 薄板の冷間圧延における形状理論と現場的問題点
11. 冷間圧延における形状制御システム
12. シングルプラネタリーミルと圧延特性
13. 条鋼圧延理論の現況
14. 最近の線材圧延理論と発展
15. H形鋼連続圧延の開発と基礎理論
16. 連続圧延無張力制御

熱経済技術部会

第15回耐火物分科会

開催日：6月6，7日。出席者：鈴木主査，ほか57名。

- 1) 統一議題「省エネルギーからみた耐火物の考察」
「高炉炉前材について」に対し，11事業所よりの報告があつた。
- 3) 他に，自由議題として「溶銑鍋内張りの合理化」
「ステンレス入りキャスト耐火物の利用について」
「高炉改修時の耐火物について」
「熱風炉の解体結果」の報告があつた。
- 3) パネルディスカッション「高炉炉前材の品質試験と評価法について」
—が行われ，新日鉄，鋼管，川鉄，住金，神鋼の各社より選出されたパネラーを中心に意見の交換が行われた。
- 4) 終わりに主査より，とりまとめの挨拶があつた。

品質管理部会

第5回機械試験小委員会

開催日：7月18，19日。出席者：白浜主査，ほか56名
新日鉄津製鉄所で開催した。1) 規格関係では，引張試験片，試験方法，試験機について各国の規格を紹介比較して検討をした。これから毎会議ごとに，機械試験関係の規格を紹介していくことにしているが，今まで誰も

したことのないことであり、大変有意義であつた。2) 自動化については現行規格に基づいた自動引張試験機についてアンケートをもとに意見交換をし、次回購入仕様を幹事より紹介し検討することにした。3) 検査制度については DIN, BS について紹介があり、ドイツ、イギリスにおける品質保証制度をふまえての検査制度について紹介があり、外国の様子もよく知つた上で、検査制度について検討してゆくことにした。

設備技術部会

第10回圧延設備分科会 開催日：6月13, 14日。出席者：矢沢部会長，ほか117名。

部会長，主査（代）あいさつのもと下記テーマについて研究発表，質疑が行われた。

1. 油圧系統の油洩れ防止対策
2. 油圧系統の異物と事故障害
3. 入側バンド処理装置について
4. 入側コイル装入装置について
5. リンガーローラーについて
6. タンデムテンションリールの問題点と対策
7. 冷間タンデムミルのギヤタイプスピンドルの摩耗対策
8. 冷延圧延油ろ過器について（ホフマンフィルター）
9. ワークロール駆動用フレキシブルカップリングについて
10. 油圧タンデムミルの油圧系統メンテナンスについて
11. タンデムミルテンションリールα問題点とその解析

このあと，電気設備小委員会（仮称）から設立のいきさつなどにつき報告が行なわれた。

工場見学は，日新製鋼（株）阪神製造所堺工場冷間圧延工場で行なつた。

標準化委員会

ISO鉄鋼部会

第5回 TC67 分科会 開催日：7月2日。出席者：川野幹事，ほか10名。

ISO/DIS 3183

Oil and natural gas industries-Steel line pipe の検討 日本意見案の作成を行なつた。

日本意見としては，現在世界的に使用されている API（アメリカ石油協会規格）と相違する規格ができることは望ましくないとの主旨に基き，日本意見の作成を行なつた。この意見を，日本工業標準調査会へ答申し，ISOへ回答して載くことにした。

鋼管分科会

第34回分科会 開催日：7月3日。出席者：川野幹事ほか11名。

1. ISO/TC5/SC1 第17回会議出席報告
 - 日本が TC5/SC1 へ Pメンバーとしての参加が認められ，始めて2名の日本代表が参加したこと。

○TC5/SC1 は英仏独の3国が中心できりもりしており，底流としては仲間意識が濃厚に感じられ，会議全体を支配している。

○本場にわが国の意見を認めてもらうためには，原案作成時から，Expert group に入つて作業しておく必要がある。

ことが強調された。

2. ISO/TC131/SC3 Draft proposal の検討
3. ISO/TC5/DIS 3 304~3 306 の検討
4. ISO/TC5/SC1 の今後の取り扱いについて
従来 ISO/TC5 に関しては鋼管分科会で取り扱つて来たが，今後 ISO/TC5 に関する検討，審議機関として TC5分科会を発足させることにした。
5. その他報告

鋼管規格体系調査分科会

第4回分科会 開催日：6月14日。出席者：田中主査ほか18名。

(1) 鉄鋼メーカーグループにおける検討結果報告および検討

JIS 鋼管規格それぞれに相当する外国規格の内容を調査し，JIS との比較，整理した1例が紹介され，後討議が行なわれた。さらに主要な規格について同様の整理を行なうことになつた。

(2) 鋼管規格体系について討議

今後さらに海外規格の整理を充分やつて答申する。体系的には大きな変更はなく，JIS の内容の見直し，充実に重点をおき，JIS 改訂専門委員会への引継ぎを考慮することになつた。

クリープ委員会

第1回委員会 開催日：6月20日。出席者：平委員長ほか26名。

本年度第1回クリープ委員会が次の議題をもつて開催された。

1. 48年度事業報告について
2. 高温クリープおよび疲労に関する国際会議出席報告について
3. クリープ委員会組織の改正について
4. 49年度事業計画について
5. その他

前記 1. 4 の議題については国際共通試験，高温引張試験，データシート作成，金材技研クリープデータシート連絡，規格原案作成の各分科会の事業について平，田村，横井，田中各主査から報告があり了承された。

議題 2 については当クリープ委員会を代表し出席した平委員長から本年4月1日から5日まで英国シェフィールドで開催され，ISO 並びに欧州各国の圧力容器に関する CODE の論議が行なわれたことが詳細報告された。

議題 3 については熱疲労試験を当クリープ委員会で行なうこととなり次のように分科会の組織を改正することが了承された。

1. 高温クリープ試験分科会（平委員長兼任）

2. 高温引張試験分科会 (田村主査)
3. 高温熱疲労試験分科会 (雑賀主査)
4. データシート作成分科会 (横井主査)
5. 金材技研クリープデータシート連絡分科会 (田中主査)
6. 規格原案作成分科会 (平委員長兼任)

ある。

材料研究委員会

第10回委員会 開催日：6月13日。出席者：長島委員長，ほか14名。

1. 次段階テーマの検討。テーマとしては、「焼入性の評価方法」「靱性の評価方法」を候補とし、ポイントの置き方を今後検討することになった。
2. 講演大会における特別報告の準備。報告書作成の分担とスケジュールを決めた。
3. シンポジウム開催の計画について。6月21日に開催される講演分科会で申込み説明をすることが決定された。
4. 各社より、焼戻し脆性に対する Mo, Cr, Ni の影響について、研究結果の発表がなされた。
5. 次回は9月19日(大同製鋼)で開催予定。

シソーラス作成委員会

第10回委員会 開催日：6月26日。出席者：染野委員長，ほか12名。

当委員会は昭和48年4月に、金属工学の情報管理のための辞書である金属工学シソーラスを作成するために設置された。その構成は金属9学協会から推せん頂いた委員と鉄鋼企業8社から推せんいただいた委員である。

現在参画学協会および鉄鋼企業委員にテクニカルタームの階層関係を作成中で、本委員会では、それぞれの経過および問題点について報告があつた。

問題点について検討が行なわれ、それぞれ方針をだした。

鉄鋼基礎共同研究会

特殊精錬部会

第1回第2分科会 開催日：6月21日。出席者：相山主査，ほか16名。

主査より第2分科会(テーマ、ESR実操業の問題)を企業関係メンバーによつて構成しその運営方針を決定するために、部会各委員(大学、公立試験所および企業関係)にアンケートを行つた結果の説明があつた。アンケート回答に見られる問題点は主として、

- イ. 特殊精錬部会内における第2分科会の位置づけ
- ロ. 企業間の共同研究の方法

に関するものである。このような問題点をふまえて、具体的な運営方針に関する討論を行つたが、当面は問題点を整理していくということで、共通テーマを設定してそれについて討論を進めることとした。次回は9月10日に“ESR鋼塊の欠陥”というテーマで開催する予定で

第1回第4分科会 開催日：7月1日。出席者：荻野主査，ほか15名。

1. 研究報告

① エレクトスラグ精錬用フラックスの性質について 荻野主査

② CaO-Al₂O₃-CaF₂系融体の密度、表面張力および電気伝導度について 阪大 原委員

2. 討議

第4分科会の活動方針について

荻野主査より主旨説明の後、討論が行なわれ、次のような方針にて今後の活動を行なうことになった。

ESR精錬法においてはフラックスのはたす役割はきわめて大きい。しかしESRフラックスの諸性質に関する研究は多数を数えるが、実験上の困難が多く、必ずしも満足できる状態ではない。とくにフラックスの物性値については測定者による不一致が著しく信頼できるデータは非常に少いのが現状である。当分科会においてはESRフラックスの物性に関する基礎的な検討をはじめ、物性測定に関する情報の交換をおこない、信頼できるデータの蓄積につとめる一方、メタルとフラックス間の反応、ESR法における諸現象と物性値との関係についても、他の分科会との共催において解明につとめる。

第2回第6分科会 開催日：6月27日。出席者：渡辺主査，ほか9名。

今回はESRに関する国内・海外の文献で1973年12月までに報告されたものの最終確認を行つた。

国内分については井口委員より、また海外分については小島委員より報告があり、それから抜けた文献について他委員より報告があつた。それらの文献数は国内分が約530件、海外分は約200件であつた。

今後はこれらの文献の大意をカードに記載する作業に入り、今年の10月末に次回の分科会を開催する予定である。

鉄鋼工学講習会検討委員会

第3回委員会 開催日：6月28日。出席者：加藤主査，ほか12名。

鉄鋼工学講習会(仮称)の必要性ならびに運営方法などについて、アンケートを行ない、その回答をもとに討論を行つた。

アンケート対象者は上司用(技術部長クラス)として130名、受講対象者用(昭和39,40年大学卒クラス)として450名に行なつたが、その回答結果は、上司用は93%(66/71)、受講対象者は72%(130/180)の支持率であつたので、アンケート結果を基に運営方法を検討し進めていくことになつた。